

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月26日
枚方市立五常小学校

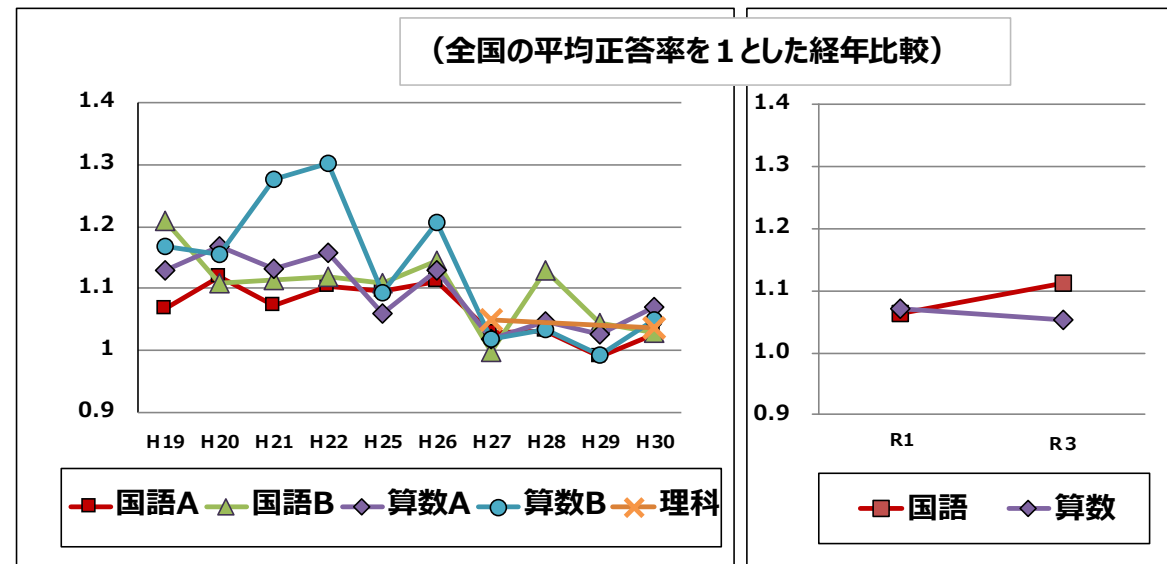
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。



<学力調査結果の概要>

国語・算数ともに平均正答率は、全国平均を上回っていました。

○国語について

話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って読んだりすることについては8割以上の正答率でした。一方で、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、中心となる語や文を見つけて要約したりすることについては5割を下回り、課題が見られました。

○算数について

棒グラフなどのグラフから必要なデータを読み取ったり、分かることを選んだりすることについては8割以上の正答率でした。一方で、示された図形から必要な情報を選び出し、三角形などの面積を求めたり単位量当たりの大きさを使って比べたりすることについては、正答率が5割前後と課題が見られました。

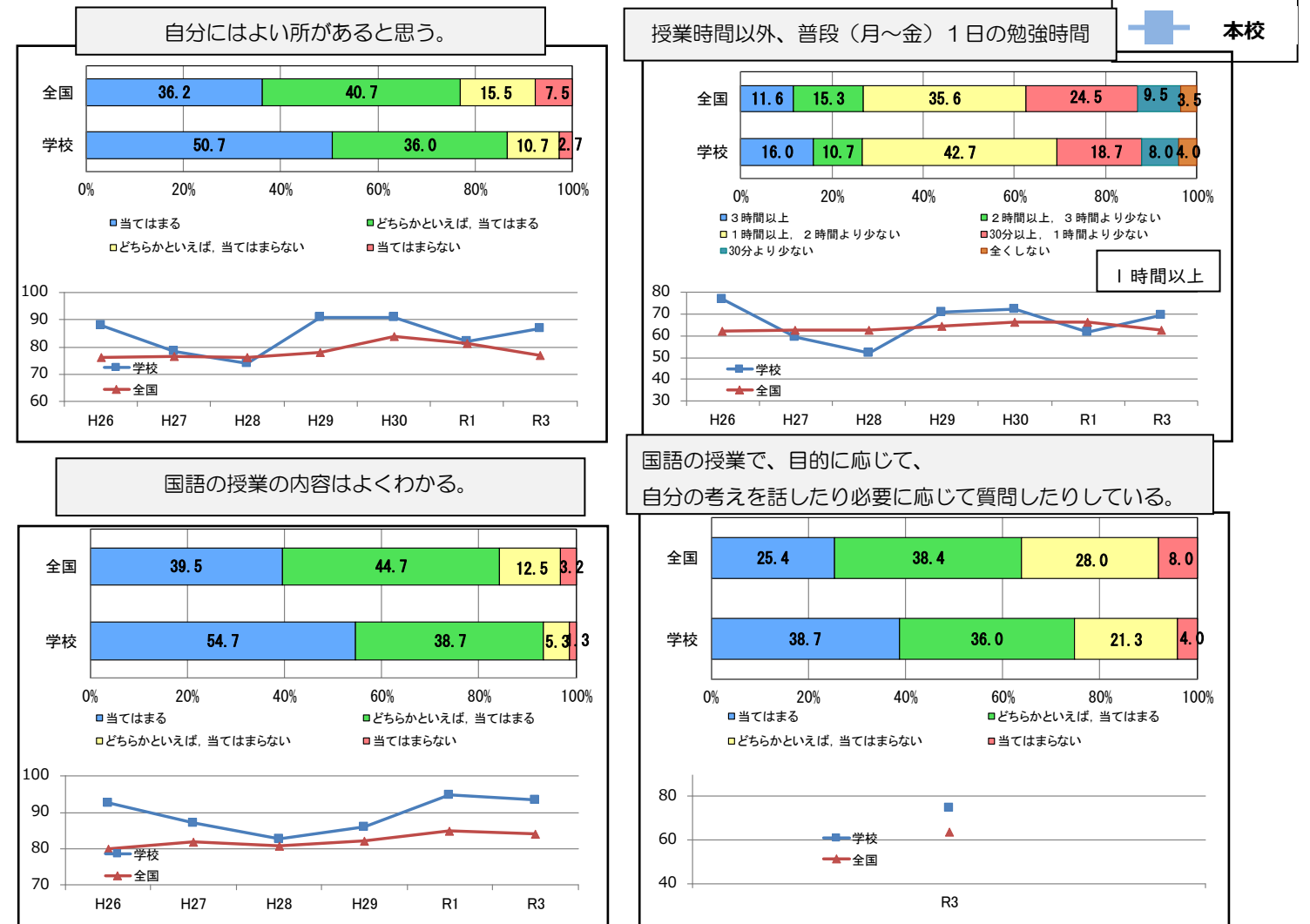
※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

質問紙調査で上記4項目については、全国平均やこれまでの本校の結果と比較して、よい傾向が見られる結果となりました。

「国語の授業の内容はよくわかる」において、肯定的回答は9割を超え、「国語の授業での、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」においても8割近くにのびました。本校の国語科を研究教科とし、根拠を持って話し、質の高い聞き方を通して、新たな発見ができる子どもの育成をめざして取り組んできた成果だと考えています。

まとめ

学力調査における本校児童の平均正答率は、全国平均より高い割合を示していました。また、質問紙調査においても概ね肯定的回答の割合が高いという結果となりました。質問紙項目「自分にはよい所があると思う」において、肯定的回答が8割を超えていました。これからの変化の激しい社会を生きる子どもたちにとって、何事にも失敗を恐れずにチャレンジすること、努力することが求められます。その原動力となるのは、「自分はできるんだ!!」という自己肯定感だと思います。これからも学校全体として、さらなる授業改善に取り組みながら、子どもたちの成長を温かく見守り、「よく学び 思いやりのある たくましい子」の育成をめざしていきます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

調べたことについて、資料を使ってスピーチをする。
(津田梅子の紹介)



【資料④】
このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を世の中に送り出したのです。



三 津田さんは、[資料④]の資料を参考に、[資料⑤]の資料をもとにスピーチの構成を考えました。

	正答率	無解答率
本校	90.7	0
全国	81.0	0.4

(考察)

目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかを見る問題では、正答率は9割を超えました。これを含めた「話すこと・聞くこと」に関する問題の全体の正答率も8割を超え、目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、資料を使って話したりすることができていたことがわかりました。これは、国語の授業の中で、子どもたちが目的意識・相手意識を持って言語活動に取り組んでいる成果だと考えられます。

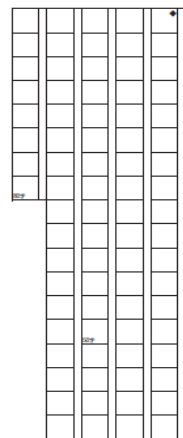
	正答率	無解答率
本校	37.3	2.7
全国	34.4	4.1

(考察)

目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問題において、誤答の解答類型から字数制限だけでなく、複数の条件をすべて満たして書くことに課題があることがわかりました。特に、この問題では、文章だけでなく、文章と図表を結び付けて要約する必要があり、約40%の児童が、図表から必要な情報を取ることができなかったことがわかりました。別問題において、修飾語・被修飾語の関係を捉えることができていなかったことから、文章自体を理解することが不十分であったことが考えられます。

【課題】

説明的な文章を読み、分かったことをまとめる
(「面ファスナー」)



○ 五十歳以上、八十歳以上の間に比べて、



三 相川さんは、[資料①]の「面ファスナー」のイラストを参考に、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えました。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

統計的な問題解決の方法を用いた考察
(図書アンケート)

(5) ひよりさんたちは、アンケート調査の結果について、話し合っています。



図書室には読みたい本が少ないと思っている人や、地域の図書館で本を借りている人が多いことがわかりました。



図書室でもっと本を借りてもらうために、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、学校の図書室に置いてもらうことにはどうでしょうか。

そこで、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることにしました。
5年生と6年生から、どのようなデータを集めるとよいですか。
下の1から5までの中から、ふさわしいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 学校の図書室をよく利用している曜日
- 2 学校の図書室に置いてほしい本の題名
- 3 学校の図書室をよく利用している時間帯
- 4 地域の図書館をよく利用している曜日
- 5 地域の図書館で最近借りた本の題名

5 cm
図1

	正答率	無解答率
本校	84.0	1.4
全国	73.9	1.3

(考察)

集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかどうかを見る問題では、正答率は8割を超えました。表やグラフからデータを正確に読み取ることができていた(正答率9割以上)ので、設定された問題に対して集めるべきデータを判断できたと考えられます。表やグラフから、データの特徴や傾向を読み取るという「技能」を活用して、正確に「判断」できたと考えられます。

図形の構成の仕方に着目した図形の計量についての考察
(三角形や四角形の面積)

2

図1のような直角三角形があります。

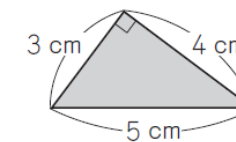


図1

- (1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。
求める式と答えを書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	54.7	2.7
全国	55.1	5.2

(考察)

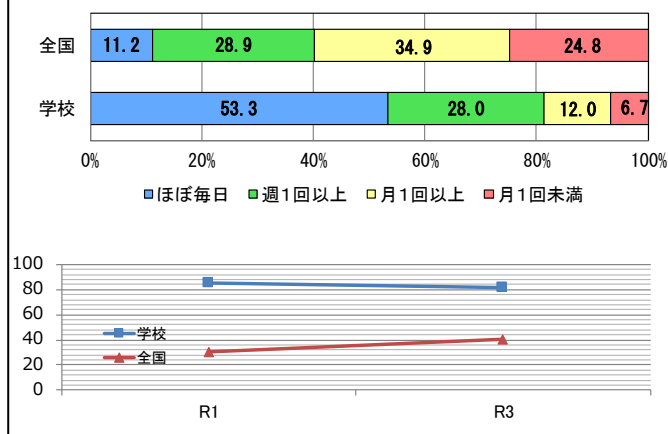
三角形の面積の求め方について理解しているかどうかを見る問題において、約18%の児童が、すべての辺の長さをかけるなど、求積公式を使いこなせていませんでした。また、図から底辺や高さにあたる数値を選び出すことが難しい児童もいました。5年生時に学習したことが定着しきれていなかったことが考えられます。

質問紙に関する調査

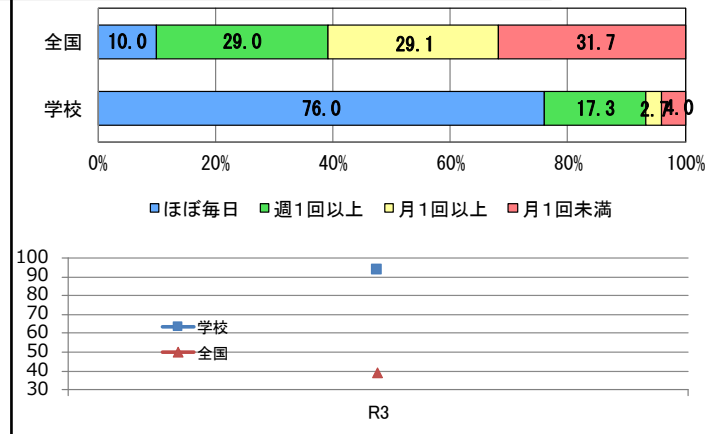
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

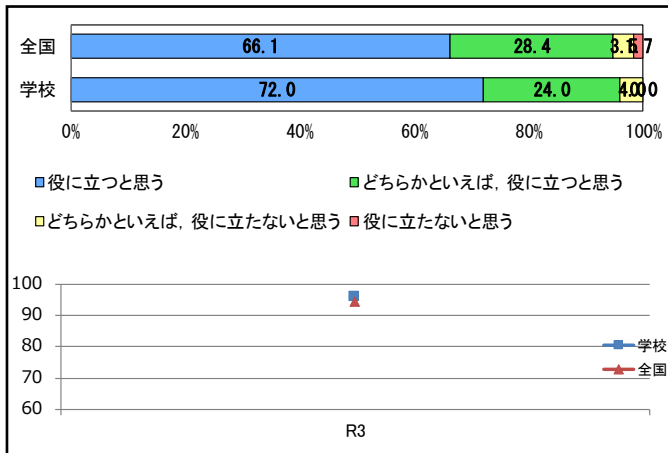
5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器を



あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。



学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



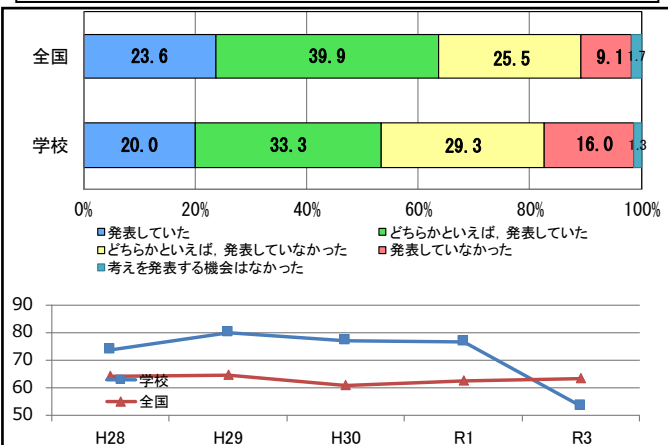
（考察）

昨年度末からGIGAスクール構想の一環として、一人一台のiPadが子どもたちに貸与されました。これらすべての項目において、肯定的回答が高く、全国平均を上回りました。

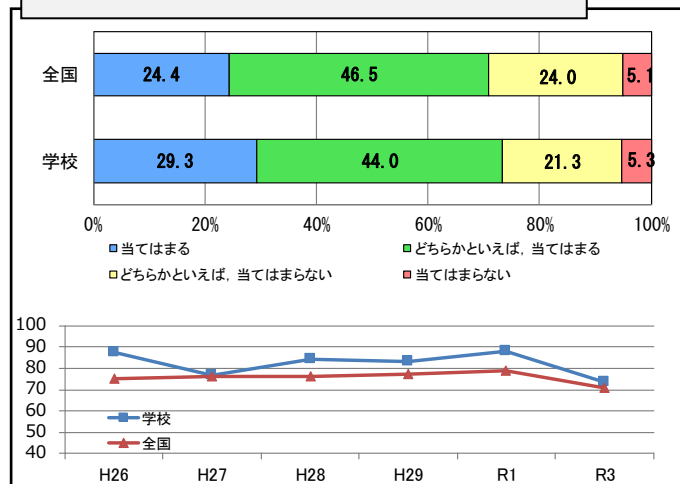
「コンピューターなどのICT機器を他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の結果からもわかるように、ICT機器を使うことを目的にするのではなく、学習の目標を達成するために、先生も子どもたちも試行錯誤しながらICT機器を使っていることがわかりました。

【課題が残った項目】

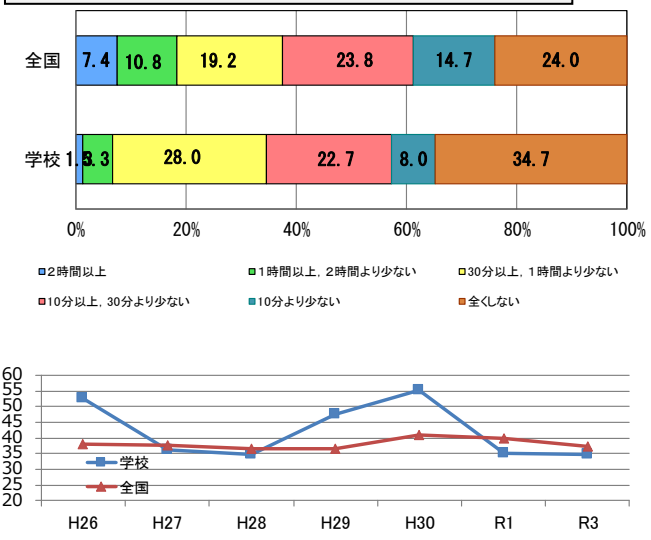
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。



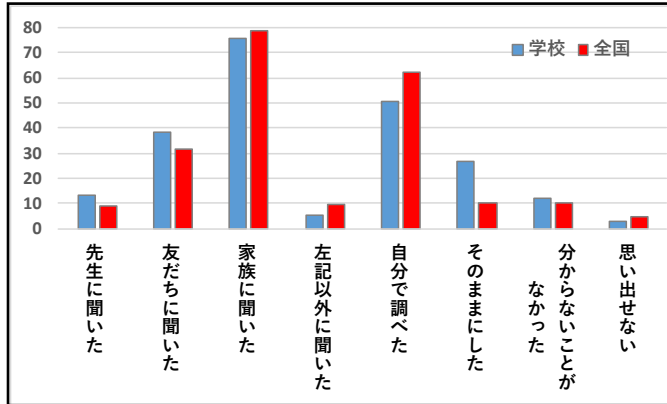
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。



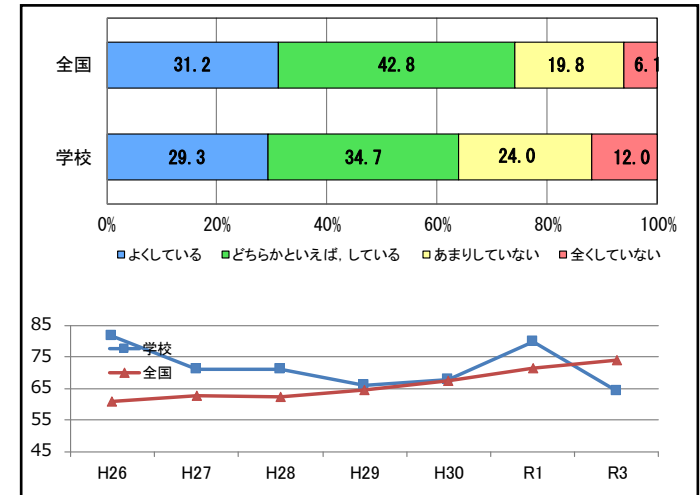
授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。



学校の休校期間中、学校からの課題で分からなかったことがあったとき、どのようにしましたか。



自分で計画を立てて勉強している。



（考察）

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」ことができていないという回答は前回よりも下がりました。これは、自分の考えを「言いたい!」という思いだけが先行してしまっているのではないかと考えられ、相手に分かりやすく伝えるという意識付けが必要不可欠なことがわかりました。

また、自分で計画を立てて勉強することや、普段の読書をする時間が下がっていることがわかり、機会や時間をどう確保するかが課題です。

最後に、休校中の課題で分からなかったことがあっても「そのままにした」という回答が全国平均よりも多く、失敗しても安心できる環境づくりや分からないことをiPadなどのICT機器でいつでも調べられるように指導していきます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- 学力調査で多くの子どもたちが定着しきれていなかったものに関しては、しっかりと復習します。
 - ・国語：「主語・述語、修飾・被修飾の関係などの文法について」「条件付きの文章要約や文章読解について」
 - ・算数：「平行四辺形や三角形などの面積の求め方について」「1あたり量や割合について」
- iPadなどのICT機器を効果的に活用した授業づくりを継続して行います。
 - ・NHK for school などデジタルコンテンツの活用
 - ・写真や動画を使った記録やインターネットを使った調べ学習
 - ・タブレットドリルを活用した朝学習
 - ・iPad操作スキルの系統的な指導
- Hirakata 授業スタンダードに基づいた校内研究を進めます。
 - ・国語科を中心に全学年による授業研究
 - ・「話し方・聞き方名人への道」「まとめ・ふり返りの書き方」の徹底
 - ・「枚方スタンダード」に基づいた学習規律の徹底

(2) 家庭学習について

- iPadなどのICT機器の活用を継続して行います。
 - ・授業の予習や復習でのロイロノートやタブレットドリルの活用
 - ・調べ学習などでのロイロノートの活用